

1 教育目標（目指す児童児童像含む）

豊かな心や健やかな体を持ち、自ら考え、取り組み、判断し、新しい時代を創造的に生きる児童を育成する。

- (1) かしこく — よく考え がんばりぬく子ども — 「学ぶ意欲と思考」の育成
- (2) なかよく — すなおで 思いやりのある子ども — 「他人への思いやり」の育成
- (3) 元気よく — じょうぶで 明るい子ども — 「強い心と体」の育成

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「子どもを中心とした活力に満ちた明るく、楽しい学校づくり」

創立以来138年の輝かしい伝統と、優れた校風を受け継ぎ、未来に生きる子どもたちのための最も望ましい教育の方向を洞察し、田原小学校教育の開花を期する。

そのためには、教職員・児童が一体となって英知と熱意を結集し、充実した教育活動を展開しなければならない。また、教職員一人一人が自己啓発・相互啓発に努め、明確な目標とゆきとどいた計画にもとづき、各学年・学級および各分掌間の緊密な連携のもとに、質の高い教育活動を推進することが大切である。

3 学校経営の方針（中期的視点）

- (1) 確かな学力の定着 ・「わかる授業」をとおして、基礎的・基本的な学力を定着させる。
- (2) 豊かな人間性の育成 ・相手を思いやり、他者の立場に立って考え行動できる心を養う。
- (3) 基礎体力の定着 ・健康・安全に関心を持ち、積極的に体力づくりに取り組ませる。
- (4) 家庭・地域社会との連携 ・開かれた学校づくりに務め、地域に信頼される学校づくりを推進する。
- (5) 教職員の資質の向上 ・使命感に徹し、協働体制のもと各自が特性を発揮し資質の向上を図る。

4 今年度の重点目標（短期的視点）

（学校運営）

「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携し、地域の教育力を活用した教育活動を推進し、子どもが「行きたくなる学校」づくりをめざす。

（児童指導）

進んであいさつをし、相手の気持ちを考えて行動できる児童を育成する。

（健康・体力）

実践的な基礎知識を学び、進んで健康の保持増進と体力の向上を目指す子供を育成する。

～楽しみや喜びを目指す体育活動の企画と実践～

（学習指導）

基礎・基本の定着を目指し、わかる楽しい授業の工夫と児童一人一人が主体的に取り組む授業を工夫・実践する。

基礎学力の向上を目指して～「基礎学習の時間」の効用～

5 自己評価（Aは共通評価指標、Bは学校独自評価指標）

（評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	<p>A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「自分は今の学校が好きである」 ⇒児童の肯定的回答90%以上</p>	<p>①学校評価や学校行事の反省等を生かし、児童が生き生きと活動する教育活動を行い、活気のある学校づくりに努める。</p>	B	<p>【達成状況】 ・全体アンケートで、児童の肯定的回答は92.8%と前年度と同様であり、目標を達成している。保護者90.1%、地域住民は80.0%が肯定的回答をしている。以上の結果から、適切な教育活動の設定と実践が評価されているといえる。</p> <p>【次年度の方針】 ・行事アンケート等から適宜内容を検討し、検証したことをすぐ次に生かせるようなマネジメントサイクルを有機的に運用し、児童が生き生きと活動する教育活動を今後も推進していく。</p>
	<p>A2 教職員は、組織の一員として誠実に熱心に教育に当たっている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①全職員が学校経営に参画意識を持って、協力して教育に当たるように努める。 ②児童一人一人をよく見取り、声をかけ、よく話を聞き、良いところは認め、指導すべき事はしっかり指導する。 ③オープンスクール、授業参観や懇談会等をとおして、学校を理解してもらえるように内容を工夫する。</p>	A	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、95.6%と高く、目標を十分達成している。昨年度は保護者の肯定的回答が85.0%で、今回は84.5%とほぼ同じだった。具体的な取組みが理解された結果とみてよいのではないかと。</p> <p>【次年度の方針】 ・小中一貫教育が導入されるので、それらを見通してさらに協力して教育に当たるようにする。 ・保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションをとるようにし、保護者の声を取り入れる機会を設け、誠実な対応に努めるよう全職員で取り組むようにする。</p>
	<p>A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①学校でのきまりを徹底するために「田原小のやくそく」を提示し、教職員が共通理解の下、生活指導はもちろん、学習指導や日課等でも、きまりを守ることの大切さを繰り返し指導する。</p>	B	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は75.0%と目標を下回った。特に教職員の肯定的回答率が55.5%と、とても低かった。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校のきまりや約束を確認し、生活指導はもちろん、学習指導や日課など学校生活全般に渡って、全教員が同一の指導をしていく。 ・個別に指導が必要な児童への学校体制を確立し、多数の生徒が落ち着いて生活できるようにしていく。</p>
	<p>A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①各教科で標準授業時数（文科省）を確保するとともに、「基礎学習の時間」において、漢字・計算・音読などを発達段階に応じて取り入れ、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図れるよう努める。 ②一人一授業公開を目標に、「わかる・できる・楽しい」授業の工夫に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は92.4%で、目標は達成した。教職員の肯定的な意見も100%であるが、地域住民の方の「判断できない」という回答が36%あり全体の平均より低かった。</p> <p>【次年度の方針】 ・放課後の教材研究の時間を確保する。 ・授業参観やオープンスクール等ではきめ細かで分かりやすい授業をアピールする。 ・次年度も一人一授業公開をし、「わかる・できる・楽しい」授業の工夫をさらに試みる。</p>
	<p>A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「自分は、学校での生活や様々な活動が充実している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①児童が充実した生活を送ることができるように学校行事や日課を適切に設定する。</p>	B	<p>【達成状況】 ・学校生活での生活や様々な活動が充実していると感じている児童の肯定的な回答が、90.9%と高く、昨年度とほぼ同様であり十分目標を達成している。</p> <p>【次年度の方針】 ・時数増加による負担感がなくなるように教育課程を編成し、今年度の成果を受け、行事や日課などの反省をもとに見直しを行い、さらによりよい年間計画(行事)や日課となるように工夫して、児童がいきいきと充実した生活を送れるようにする。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学校運営の状況</p>	<p>A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校から情報を積極的に発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答90%以上</p>	<p>①「オープンスクール」や授業参観等学期に2日以上実施し、学校公開を保護者だけでなく、地域に向けても積極的に行う。 ②学校だよりを毎月1回発行するとともに、ホームページを更新して、保護者や地域住民に見てもらおう。</p>	<p>【達成状況】 ・全体アンケートの保護者の肯定的回答は、95.2%と昨年とほぼ同じく高い回答率で、目標を十分達成しているといえる。</p> <p>【次年度の方針】 ・オープンスクールや授業公開の方法を工夫して行い、また、いつでも学校参観ができることを呼びかけ、学校の様子や授業における児童や教職員の姿を伝えていきたい。 ・学校だより、学年だより等の「たより」を定期的に提供してきたが、さらに活動の趣旨や教育的意義について、内容の精選を図り、保護者や地域住民に学校の様子を分かりやすく伝えていくようにする。地域学校園の情報についても積極的に発信していく。</p>
	<p>A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>①「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効活用し、学校運営の充実（教育活動の充実と活性化）を図る。 ②授業ボランティア（地域の外部講師・街の先生）と連携した授業を計画的に行い、その成果についても広く広報できるようにする。</p>	<p>【達成状況】 ・全体アンケートの保護者の肯定的回答は、90.1%であり、昨年度とほぼ同程度で、十分達成しているといえる。</p> <p>【次年度の方針】 ・各学年において授業ボランティアと連携した授業を計画的に行うことができた。地域協議会の認知度が上がるよう各種便りで伝えてきたが、さらに、保護者や地域住民への説明の機会を設けるなど努力していく。 ・学校側のニーズをとボランティアの調整を図り、より多くの保護者や地域の方が参加できるようにするとともに、参加後の満足感が得られるよう工夫していく。</p>
	<p>A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、学習しやすく潤いのある環境である」 ⇒保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>①毎月、施設・設備の安全点検を実施し、修繕・補修を迅速に行い、学習にふさわしい環境づくりに努める。 ②トイレと水道周りは、常にきれいに維持できるように、使用法の徹底を図るとともに、清掃活動において重点的に指導する。</p>	<p>【達成状況】 ・昨年度に比べ、教職員の肯定的回答において減少がみられたが、保護者の肯定的回答は、86.7%であり、指標の80%を上回っており目標を達成している。</p> <p>【次年度の方針】 ・機動班やボランティアとの連携を図るとともに、清掃の仕方の指導に重点を置き、学習にふさわしい環境を整える。 ・年間の掲示計画に沿って潤いのある環境作りに努める。</p>
	<p>A9 学校全体で、教職員一人一人の指導力向上に努めている。〔全〕</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は、教職員が互いに指導力向上に取り組み、指導の工夫・改善に努めている」 ⇒保護者の肯定的回答70%以上</p>	<p>①教師としての資質の向上、指導力の向上を目指す校内研修の充実を図る。 ②「基礎学習の時間」を効果的に活用し、家庭学習の習慣化を図るため保護者との連携を推進する。</p>	<p>【達成状況】 ・全体アンケートの保護者の肯定的回答は、75.2%であり、経年比較(昨年度:75.4%)すると、ほぼ同様で目標を達成している。 ・本校では、基礎学習の時間を設け、職員一人ひとりが研究授業を行うなど校内研修の充実を図ってきた。そのため、教職員の回答で、「とても思う」が59.2%、「まあ思う」が40.8%となっており、肯定的回答が高くなっている。教職員と保護者に意識の差が大きい。</p> <p>【次年度の方針】 ・教職員の資質の向上を図る校内研修を充実させるとともに、今年で2年目となった「基礎学習の時間」の取組みについて各種便り等でさらにアピールしていく。</p>

	<p>B1 学校は、事故防止・安全対策に努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は事故防止や安全対策に積極的に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定的回答90%以上</p>	<p>①月1回の全校下校、毎日の学年下校、交通安全教室、不審者対応避難訓練を実施する。</p> <p>②家庭・地域との連絡体制（田原小安全対策連絡会による防犯パトロール・子ども110番の家）を継続し実施する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体アンケートで、保護者の肯定的回答は87.5%で、保護者の肯定的回答90%を下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果があったものについては引き続き次年度も実施していく。 地域学校園で連携をとりながら、教職員が各指導場所に立ち、登校指導にあたる。 登下校の様子や指導内容について各種便りを通して発信し、保護者や地域に知らせていくことで、協力して児童の安全を守っていく。
教育活動の状況	<p>A10 元気にあいさつし、気持ちの良い言葉づかいをしている。[全]</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、あいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①朝のあいさつ運動の実施や毎月の「なかよし・あいさつ週間」の活用法を工夫し、地域と協力して基本的な生活習慣の育成を図る。</p> <p>②気持ちよい言葉づかいや返事について、共通理解のもと、日常指導の徹底を図り、保護者への働きかけを行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答割合は82.2%で目標を上回った。一方、教職員・保護者・地域住民の回答は50~60%と低い値であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童会を中心としたあいさつ運動や、地域学校園で協力しながらのあいさつ運動を実施し、あいさつについての意識の高揚を図る。 気持ちの良い言葉遣いについては、学習指導中に聞き方・話し方の指導を実施したり、学級活動に位置づけたりして、繰り返し指導する。 乱暴な言葉の底には、安定しない心理状態があると考え、穏やかな気持ちで学校生活を送れるよう努める。
生活	<p>B2 児童は思いやりの気持ちをもって行動している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、思いやりを持って生活している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①いじめの早期発見・早期対応のため実態調査を年4回実施するとともに、おしゃべり週間やQ-Uの結果を生かし、児童が安心して生活できるようにする。</p> <p>②いじめ・生命尊重についての心にひびくような内容での道徳や学級活動の授業を1回以上は行う。</p> <p>③友好委員会を中心に親切運動を推進する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答は84.8%と目標を上回った。保護者の肯定的回答割合は70.8%と低い値だった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 否定的回答をしている児童がいる実態を見逃すことなく、いじめや生命尊重の指導を継続していく。 児童の自尊感情を高め、人権教育を適切に実施することで、周りに対する思いやりの心を育てる。 個別のニーズが必要な児童には、校内担当者やスクールカウンセラーと連携し、対応していく。
健康・体力	<p>A11 毎日朝ごはんを食べ、好き嫌いのない食事をしている。[全]</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「自分は、好き嫌いなく食べている」 ⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①栄養職員と連携した食育に関する授業を計画的に取り入れる。</p> <p>②給食だよりを毎月1回発行し、栄養面を含め食育や健康に対する家庭の意識の高揚を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答は、74.7%であり、目標値を下回る結果となった。直接に給食指導に当たっている教職員の評価は、69.2%と低い値だった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学校栄養職員と連携した「食に関する授業」を計画的に実施できよう、年度当初に計画をする。 懇談会、給食だよりや各種たよりを通して、情報を発信していく。 給食時に、担任とともに栄養職員も各学級の給食指導に参加する。

	<p>B3 自分の体力を知り、進んで運動（遊び）している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は休み時間や放課後などに積極的に運動している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①元気づけ健康体力チェックの結果などをもとに、定期的に重点運動を決めて、児童が目当てを持って運動に取り組めるようにする。 ②たわらの時間や昼休みは、外で遊ぶことを呼びかける。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の児童の肯定的回答は、84.9%であり、指標の80%を越えた。 ・本校児童の肯定的回答率は、小学校全体(87.7)と比較すると2.8%低い。 ・本校の昨年度の肯定的回答率(86.3)と比較すると、1.4%低い。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動（運動委員会の活動・なかよし班遊び）を通し、楽しい外遊びの時間を経験させていき、進んで外遊びをする児童を増やしていく。 ・教職員が一体となって、外遊びを推奨していく。 ・ロング昼休みを活用して、体力増強や運動する機会を計画していく。
学	<p>A12 授業に熱心に取り組む、基本的な学習態度・技能が身に付いている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は進んで挙手し、大きな声で発表するなど授業に対して積極的に取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答70%以上</p>	<p>①「学習のきまり」や「発表のしかた」、「声のものさし」をもとに徹底指導を行う。 ②メリハリのある授業を組み立て、児童が意欲をもって学習できるように工夫する。 ③家庭学習にも力を入れ習慣化が図れるようにするとともに、保護者に対しても協力を呼びかける。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的な回答が80.2%で目標を上回った。地域住民の方の「判断できない」という回答が24%で、肯定的な回答が低かった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育が導入されるので、「学習のきまり」や「家庭学習のすすめ」等地域の学校と協力してさらに強化していきたい。 ・教師の指示や説明を必要最小限かつ的確なものにし、授業中に児童が発表する機会を増やすように心がける。 ・「発表のしかた」、「声のものさし」、授業中の姿勢や鉛筆の持ち方等の指導を徹底して行う。 ・家庭学習の習慣化が図れるように指導するとともに、保護者に対しても協力を呼びかける。
習	<p>B4 本を読むことの楽しさや大切さがわかる。</p> <p>【数値指標】 児童一人当たりの1ヶ月の読書量 ⇒20冊以上</p>	<p>①心穏やかに読む、静かな朝の読書（朝の活動）を毎日実施する。 ②ボランティアによる「読み聞かせ会」を学年・クラスごとに行うよう年間をとおして計画し実施する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1ヶ月の読書量は平均25冊で、目標を達成している。図鑑や絵本から、物語を読む児童が増えてきた。 ・朝の読書が徹底できていない様子が見られる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方々や先生方の読み聞かせが効果的なので、継続して実施していく。 ・「いつでも読書」を合言葉に、いつでもどこでも読書ができるようにさせる。 ・朝の読書がすぐにできるように、前日の帰りに読む本を準備するように徹底させる。 ・図書室で借りた本を入れるバックを用意させたい。

本校の特色・課題等	<p>B5 地域の特色を生かした学習の充実を図ることにより、地域を愛する心を育てている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各学年で、地域人材を活用し、体験活動を重視した取り組みを積極的に実施した</p>	<p>①保護者・地域社会との連携を図り、体験活動を重視した地域の特色を生かした学習などを実施し郷土愛の育成を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年において、地域の特色を生かし、地域人材を活用した取り組みを実施した。また、保護者の協力もたくさん得ることができた。学校支援ボランティアで授業支援をしてくださった方は、のべ 460 名ほどになる。 地域協議会の方が授業のサポートや環境を整えるボランティアをしてくださり、たいへん効果があった。 【次年度の方針】 成果があったものについては次年度も継続して実施していきたい。(逆面獅子舞、食農体験、琴や太鼓の体験、ミシンの指導、書写の指導等)
-----------	--	---	---

〔総合的な評価〕

【学校運営部会】

- ・「かしこく、なかよく、元気よく」を具体目標とし、「子どもを中心とした活力に満ちた明るく、楽しい学校づくり」を学校経営の理念に掲げ、この1年間取り組んできたが、「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」という項目に代表されるように、児童・保護者・地域住民・教職員の全体アンケート結果からも高い肯定的回答（全体の肯定的回答 90・8%）であった。
- ・本校では、「開かれた学校づくり」・「地域の学校」という観点から、オープンスクールや授業参観・学校行事等の公開等、様々な情報発信・提供を積極的に行っているが、その結果、保護者・地域住民からの肯定的回答平均が約 89%という高い評価を得ることができた。
- ・積極的な情報発信に関しては高い評価を得ているにもかかわらず、教職員の指導力向上の取り組み、指導の工夫・改善、わかりやすい授業や個別の指導に対する取り組みや努力については、教職員・保護者間でギャップが大きい。学校便り・学年便り等の各種便りやホームページ等でそれらに関するコーナーを設け、さらに積極的に発信していく必要がある。さらに、「基礎学力の定着を目指して」をテーマとして、基礎・基本の学習の習熟・定着を図り児童の愛容・向上を図ることで、ギャップを小さくしたい。
- ・4年目をむかえた「魅力ある学校づくり地域協議会」の活動内容が充実しており、保護者や地域住民にもこの協議会の認知度が高まってきている。期待も含めその果たす役割の重要性に協力度も増した結果と言える。今年度は、「宮っこステーション」が立ち上がり、放課後子ども教室の運営も開始された。活動内容や協力の要請等については、運営スタッフの増員と合わせて、各種便り等で周知していくことが大切と感じる。また、小中一貫教育に関連して、地域学校園協議会の運営について、田原中・田原西小学校と連携を図り、取り組みを進めていかなければならない。
- ・全体アンケートの肯定的回答比較表を見ると、『判断できない』との回答がまだ存在する。学校が、情報提供や説明責任の部分での積極的な取り組みの努力をさらに続ける一方、保護者や地域の方々が、どこまで学校のことを把握して評価して下さっているかの不安もある。さらに、【地域住民】の中に各自治会長さんに入っていただくなど範囲を広めて客観性をさらに高める必要もあるのではと考える。

【児童指導部会】

- ・きまりやマナーについては、週目標や担任からの呼びかけで、廊下の歩行・あいさつ・食事など、その時その時にあった課題を指導してきた。一定の成果があったものもあるが、その時期を過ぎるとまた悪くなるものもあった。今後も継続して指導していく。
- ・あいさつについては、児童はおおむねできていると回答しているが、大人から見るとまだまだという評価である。よくできる児童をお手本にして、底上げが図れるよう、保護者、地域、学校園で協力して呼びかけていきたい。
- ・言葉遣いや返事については、肯定的回答が全項目中、最も低かった。児童の間では、意識をせずに使っている言葉でも、人権上問題になるような言葉を使っていることもあり、その都度指導してきた。名前を呼ばれたら返事、友達の名前は「さん」をつけて呼ばせることをさらに徹底させていく。
- ・児童指導に関する項目の肯定的回答は全体的に低い。教職員も保護者も地域も、より良い児童を強く求めていることが感じられる。今後も保護者や地域の方の協力を得ながら、児童の良いところを伸ばし、改善して欲しいところは指導していく。

【健康指導部会】

- ・学校は、事故防止や安全対策に積極的に取り組んでいる」では、先生方の実践と保護者や地域住民の評価に意識の差が大きく、学校での取り組みが保護者に伝わっていない、月行事に登校指導日を入れて、職員が各登校場所に立って登校指導にあたる。

また、学校便りや学年便りを通して情報発信の工夫をする必要である。

- ・本年度は、水泳検定、なわとび検定を設定し、体育科の授業・休み時間・放課後の活動等で継続的に取り組めるよう計画を立てた。具体的な目標が定まったことで、子供達が進んで運動に取り組んだり、目あてを持って運動に取り組んだりする機会が増えた。
- ・たわらの時間が短くなったこともあり、児童が外遊びをする時間が限られているので、毎日継続的に外に出て遊ぶよう、教職員の児童に対する声かけが重要になってくるので、今後、職員が一体となって、児童が外に出るよう働きかけていくようにしたい。
- ・来年度は、鉄棒検定や持久走の練習の強化を計画し、児童の体力増強を図りたい
- ・本校副校長による継続的な鉄棒指導や田原中学校校長が来校しての鉄棒指導などで、敬遠されがちな鉄棒に進んで触れ、いろいろな技に取り組む児童が見られるようになった。
- ・児童会集会で児童が外で遊ぶ時間が計画されたことによって、仲間、遊ぶ時間が確保されたことで、進んで遊べない児童にも外遊びの時間が確保された。
- ・「給食を好き嫌いなく食べている」の質問の児童の肯定的割合は74.7%と目標を下回った。嫌いなものでも少しでも食べようと努力していることが伺える。献立により残飯の量が変わるので、残さず食べるように教師の働きかけが必要である。

【学習指導部会】

- ・今年度は「基礎学習の時間」を15分間に拡大して基礎学力の向上を目指してきた。また、一人一研究授業を合言葉に互いの授業を参観し合い、授業力の向上も目指してきた。それで、「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」の児童の肯定的回答が92.4%と目標を大きく上回り、「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」に対して肯定的な回答した教職員が100%となった。地域住民の方々への理解をしていただけるよう努めていきたい。
- ・「学習のきまり」や「発表のしかた」、「声のものさし」などのきまりを共通理解し指導に努めてきたが、徹底できたとは言えない。教職員が同一歩調で指導に当たりたい。また、児童に発表させる機会を増やすため、教師の指示や説明をできる限り少なくしかも的確にするようにしていきたい。次年度から、小中一貫教育が導入されるので、地域の学校と協力しながら指導を強化していきたい。
- ・毎朝の読書や読み聞かせ等によって、読書好きの児童が増えてきた。「自分は進んで読書している」と肯定的な回答している児童が84.5%と多かったが、朝の読書で読む本の準備が徹底していないので、今後徹底させるようにしていきたい。
- ・ボランティアや外部講師にお手伝いいただき、充実した内容の授業をすることができた。また、地域協議会の協力も得て学習環境が整っており、今後も継続したい。

6 学校関係者評価

◇ 学校教育全般(学校運営面)

- ・オープンスクールや学校行事などで、地域ボランティアや学年ボランティアの方に手伝ってもらったり来てもらったりする事により、小学校の雰囲気を知っていただく良い機械だと思う。
- ・学校行事に参加する機会がなくなると残念に思っているが、「学校便り」が素晴らしく楽しく読ませていただいている。先生方はじめ皆さんが頑張っているのが伝わってくる。
- ・設問の19、「教職員は命の大切さや人を思いやる心を・・・。」について、肯定度が、教職員>児童>保護者となっているが、教職員の捕らえ方が甘いのではないかと。児童>保護者>教職員 となるのが望ましいのではないかと。
- ・全般的によくできているが、地域協議会の意見があまり強すぎても、学校にとってやりにくい部分があるのではないかとと思う。
- ・学校の廊下や通路に季節の飾りや児童の作品が展示してあり、明るい雰囲気が感じられる。昼休みなど、先生が校庭で子ども達と遊んでいる姿が多く見られ好ましい。
- ・設問の6、学校の公開や情報の積極的な発言・提供はされていると思う。しいて言えば、オープンスクールなどに保護者だけでなく地域の人に来てもらえるように、例えば、児童が書いた手紙を自治会長に出すとかの工夫が必要だと思う。
- ・学校経営の理念が確立しているので、先生・児童・保護者・地域住民が一体になって理念達成に向かっていく雰囲気が整っていると感じる場面に遭遇する機会がある。
- ・田原小学校は、教職員・保護者・地域住民、そして児童が一致協力する良い雰囲気の学校になっていると思う。次年度より小中一貫教育が導入されるが、教職員の負担増にならないよう、うまく利用して理想実現の一助になればと願っている。
- ・学校運営面で一番大切なことは、「教職員が心置きなく、安心して学童に向かうこと」と考えている。管理職が明るく活発に校内行動をし、校外的には全責任をもって対応することで、教職員は安心して学童に対応でき、自然と前向きな行動・意見が生まれると思う。

◇ 児童の様子全般（生活の様子、あいさつや言葉遣い等）について

- ・田原小の児童は、とてものんびりしていて悪質ないじめ等もないのではと思う。あいさつ等は元気に進んで言える児童と言えない児童がいるので、指導を継続してほしい。
- ・児童によって個人差はあるが、あいさつや言葉遣いがおおむねできており、先生方の指導の苦勞の様子が伺える。決まりを守ることの大切さ等、家庭での指導が必要な事項もある。また、保護者の肯定的回答の割合が低い項目について、今後とも重点的な指導が望まれる。
- ・宮っこステーションが始まり、児童と接する機会が多くなった。人の話をよく聞かずに騒いだりふざけたりする態度が目につくようになった。先生方の厳しい指導が必要だと思う
- ・清掃の時間に、スノコの下まで丁寧に掃いている児童の姿をよく見かける。
- ・友達同士・先生に対して・外部の人に対して、きちんとあいさつできたらと思う。放課後子ども教室に迎えに来る保護者は、いつもあいさつしてくれる。大人のそういった様子を見て子供たちに良い影響が出ていると思えることもある。一方で、先生をあだ名（愛称）で呼んだり、友達のように接したりすることに対して指導が必要だと思う
- ・あいさつが、昨年度と比べると、少しずつ良くなってきていると思うが、まだ、恥ずかしそうな顔をして通り過ぎてしまう児童がおり気になっている。目上の人に対する言葉遣いは、テレビなどの影響なのでしょうか。
- ・設問「授業と生活の決まりやマナーを守って生活している。」に対して、教職員の肯定的回答率が、55.5%という低い数字が気になる。もっと厳しい指導も必要なのではないか。
- ・「元気にあいさつしている。」について、教職員・保護者・地域住民の数字の低さに驚いている。もっと高い数字だと思っていたので、あいさつ運動などを継続して行い、加えて家庭でどれだけ指導できるかの問題だと思う。
- ・児童の生活については、節度と落ち着きある行動を感じる半面、相手からあいさつされて初めてする場面がまだまだみられるが、行動する過程での態度やあいさつには節度を感じる機会が多くなった。
- ・マナーやあいさつ・言葉づかいについては、児童の肯定率は高めでそのほかの人の肯定率は低くなっている。これは、昨年と同様で、児童が現状を理解していないかあるべき姿を描けていないと判断できる。中学生のあいさつなど具体像を見せて、そのギャップを埋める必要性を感じる。
- ・非常識が常識として通用しつつあり、同年代・同環境で育った保護者・教職員が児童に対応している。学校が保護者・地域とますます連携を密にして、学校教育を推進していく必要性を感じている。

◇児童の安全・健康・体力面について

- ・教職員が外遊びを進んで行ったり縄跳びや鉄棒など積極的に取り組んでくれたりすることは、大変良いことだと思う。さらに、田原西小のように、マラソン大会があるとよいと思う。
- ・お弁当の日があることにより、買い物をしたり献立をバランスよく考えたりして、お弁当作りを通して食育の勉強につながっている。健康への関心も高まりとても良い機会だと思う。
- ・好き嫌いのない食事については、学校では、継続して指導していくしかないと思う。保護者には、食育の大切さの情報を継続して発信して、家庭でも好き嫌いをなくす努力をしてもらうしかないと思う。
- ・登下校時、多くの登校班の班長が苦勞していると聞いている。班ごとや学級での指導を徹底する必要があると思う。
- ・設問14「好き嫌いなく食べている」は、児童の肯定的回答が低い、食べ物に好き嫌いがあるのが当然。大切なのは、嫌いなものでも食べようと努力することなので、「嫌いなものを少しずつ食べられるよう努力している」に直すべきだと思う。そうすれば、アンケートに肯定回答した児童は、そのように務めると思う。
- ・学習面では、とても工夫した取り組みがされていると思うが、反面、それを支えるための体力が不十分だと感じており、体力増強への取り組みの必要性を感じている。体育系の検定カードは、目安にもなるのでさらに取り組みを続けてほしい。給食についても、もっと校庭で体力を使えば、空腹感が増し残食も減ると思う。
- ・外絵で遊ぶことについては、家庭で、日ごろから外で遊ぶよう保護者が教えないといけないと思う。「たわらの時間」・昼休み等の長い休み時間に遊んでいる教職員が限られており、次の学習準備等で忙しいのは理解できるが、教職員が先頭に立って児童と遊んでもらえたらさらに良いと思う。
- ・安全対策連絡会では、登下校時に常日頃指導してくださっている方たちから具体的な問題点をうかがい、安全巡回パトロールのメンバーの参考としたい。一人でも多く出席していただくため、連絡会の持ち方をさらに見直す必要を感じている。
- ・防犯パトロール等のボランティアの方たちに対する学校からの声掛けがもっとあると、気持ちも明るく活動できると思う。子供たちに会った時のあいさつや会話により、現在は救われている

◇学習面に関すること

- ・百ます計算、漢字練習、音読など基礎学力向上の取り組みが素晴らしい。さらに継続・努力し、その効果をふだんの授業にも生かされことを期待している。
- ・学力UPの取り組みは、たいへんよく理解できるが、体力低下が言われている昨今、持久走大会や縄跳び大会等の時間を設ける必要を強く感じている。
- ・各学年において地域人材を生かした授業が実践されており、授業を通して田原地区の理解が深まっていると思う。地域の企業を活用した授業も今後さらに充実させてほしい。
- ・児童一人あたりの読書量が月20冊という多さに驚いている。他の学校がどれ位なのかわからないが、個人的には、大変立派なことだと思う。

◇総合的な評価に関すること

- ・総合的な評価に関しては、おおむね妥当だと思う。教職員と保護者のギャップが出るのは当然で、気にする必要もないと思うが、「いじめの問題」については別で、楽観せず厳しい目で見つめてほしい。
- ・保護者の自由意見の多さに驚いている。良いことも悪いことも関心の表れだと思うが、これだけの意見に一方通行はどうかとも思う。学校便り等で、毎回“少しずつの返信”をしていき、意見を聞いてもらっているという形をつくる必要があるのではないかと思う。
- ・開かれた学校、地域の学校ということについては、とてもよく開かれた学校だと思う。地域の人から見ると学校というところは、まだまだ敷居の高いところだと思うので、継続的な情報発信をし、自治会長などにもお願いして各自治会への声掛けを通して、学校への理解が深まるのではないかと思う。
- ・あいさつについては、さらに上を目指すとなれば、まずは大人(保護者)が児童の見本となって、誰にでもあいさつができなければいけないと思う。
- ・1年生から積極的に挙手をして授業に臨む習慣を身につけさせてほしい。
- ・先生が校庭で児童を叱る場面に遭遇したことがあるが、叱られる理由をきちんと説明し大きい声で叱っており、頼もしく感じた。その児童の立場に立って、適切に叱れる先生を管理職は育成してほしい。
- ・マネジメントシステムも何年か続いており、外部の目を意識した評価となっている感じもする。設問等を見直す時期に来ていると思う。児童がアンケートに答えることで、児童自らが行動を改善していける様な設問を工夫してほしい。

7 まとめと次年度へ向けて(学校関係者評価を受けて)

◇ 学校教育全般(学校運営面)

- ・地域協議会委員の方々からは、総合的な評価に関しておおむね良いとの評価をいただいた。いくつかの点については率直な意見もいただいたので、来年度も、アンケート結果と自由記述とそれらの意見を考慮して、学校運営、教育活動の改善に生かしていきたい。
- ・アンケート結果で、教職員・児童・保護者・地域住民のギャップが大きい項目について、学校だよりやホームページをはじめ、各種便りの発行、授業参観後の懇談会等において説明していき理解を深めるよう努める。また、説明内容や資料等については、学校として共通理解を図っていくなど、説明責任の部分での役割をさらに重視していくようにする。
- ・地域に開かれた学校づくりを目指す努力を今後も続け、街の先生・地域ボランティアの方々との協力しながらの取り組みを充実させていく。また、学校公開の機会について時期的な配慮・内容の充実等について工夫するなどして、学校を理解してもらえるような取り組みをさらに充実させ、啓発に努めるようにしたい。
- ・教職員にとって『やりがいと居がいがあり、自分の力を発揮できる学校』を目指し、教職員一人一人が高い指導力と情熱をもって活躍できるような職場環境の構築に心がけていきたい。
- ・「田原小学校魅力ある学校づくり地域協議会」と協力しながら、地域の教育力を活用した教育活動を推進するとともに、地域の方々に学校の様々な情報を発信したり、学校と関わっていただけるような機会を設けたりして、学校に気軽に来られるような雰囲気づくりを進めていきたい。

◇ 児童の様子全般(生活の様子、あいさつや言葉づかい等)

- ・保護者、教職員及び児童自身による肯定的回答が低い質問項目「児童のきちんとした言葉づかいや返事」「児童のあいさつ」と、自由記述等にも意見のあった「登下校の安全確保及び指導」など改善すべき点は、学校・家庭・地域・企業がさらに協力連携し、それぞれの立場で取り組んでいけるようにしたい。
- ・言葉遣いやあいさつなど家庭の教育に係わる部分については、魅力ある学校づくり地域協議会やPTAとの連携を深めて「親学」に関する講演会等を開き、共通理解を図って推進していくようにする。

- ・「規範意識の育成」、「人権を尊重する態度の育成」等について、学校が保護者や地域の方々に指導の協力を積極的に働きかけ、協働して推進していく。

◇ 児童の安全・健康・体力面

- ・体力向上については、めあてをもって体力づくりをする場の設定を推進していく。(持久走大会の実施、各種検定の実施、外遊びの奨励、教科体育の充実・運動量の確保等)
- ・「食育」に関する指導は、学校と保護者の連携が必要不可欠の部分であり、学校においては、給食指導を中心に指導し、保護者に対しては、地域協議会とPTA共催による『親学講座』等を開催するなど、引き続き充実させていく。
- ・清掃活動については、児童数が減っていることもあり、清掃時に保護者に協力を依頼したりPTA生活安全委員会の活動とも連携させるなどしたりして取り組む。さらに、日常の清掃時において、目的意識(協力・美化)をしっかりと確認した上で、清掃の仕方を十分に指導していく。

◇ 学習面に関すること

- ・「児童は、進んで挙手し、大きな声で発表するなど授業に積極的に取り組んでいる」の児童の肯定的回答率が、本年度は80.2%と目標を上回ることができた。今年度の取り組みについて、教師がさらに課題を自覚し、積極性が高まるような工夫をしている。また、地域住民の肯定的回答率が52.0%と低いので、授業参観・オープンスクール等の機会を活用し認識を深めたい。
- ・漢字や計算力など基礎的・基本的な内容の定着を図るために、基礎学習の時間を10分から15分に増やし、指導方法や内容について研究を深め努力を続けてきた。さらに、研究を深めたい。→教育課程上の位置づけ、年間指導計画の見直し等を行う。
- ・家庭学習の習慣が身につくように、生活時間の見直しや課題の内容の検討など家庭の協力を得て進めていきたい。本校で、本年度1年生保護者向けに出した『田原小の子どもをグングン伸ばす「家庭学習のすすめ」H21.10.9 自主学習のすすめ H22.1.12』をさらに浸透させ徹底を図る。→家庭学習の習慣化を図る。
- ・読書指導については、図書館司書を中心に、読書内容にも目を向け、読書・図書館ボランティアさん等との連携をいっそう深め、さらに、今年度以上の読書活動の充実を図っていくようにする。